

五郎丸に影響与えた指導者の部下育成術(第10回)

成功したときこそ、振り返りを重視しよう

2016.09.14

ラグビーワールドカップの大活躍で話題となった五郎丸歩選手。選手として基礎を固めた早稲田大学ラグビー蹴球部時代の監督が中竹竜二氏だ。五郎丸選手は、今でも影響を受けた指導者として中竹氏の名前を挙げる。中竹氏に結果を出す部下への指導法を学ぼう。

仕事で失敗したときに振り返るのは当たり前。一方、成功したときに行うべきルーティンにはどんなものがあるのだろうか。今回の「部下に気づきを与える」言葉は、ビジネスでの成功を継続させる際に役立つものだ。最終回は、部下を育てる際に欠かせないシンプルな一言に迫る。

部下が目標を達成したとき、どんな言葉をかけるだろうか。「良かったな」「頑張ったかいがあったな」。このような声かけが一般的だろう。私もまずはそう言うが、その後「成功したときこそ、振り返りを重視しよう」と続ける。

部下が失敗したとき、その原因を見つけるために振り返りをさせることの重要性は、多くの上司が知っている。では、成功したときはどうだろうか。現場は忙しい。成功したのだから、わざわざ振り返りをするモチベーションは働かないだろう。

しかし、私は成功したときにも振り返りをすべきだと思うし、ラグビーでも実際に試合に勝ったとき、選手が成長したときに振り返りの時間を大切にしてきた。

その理由はまず、成功を再現するためには、うまくいった要因を抽出しておくことが重要だからである。成功や成長には、ある種の「ラッキー」が付きまとう。強豪校に勝てた。それは相手のエースがケガで欠場したから。こちらの選手が全員、とても調子が良かったからなど。しかし、この程度の分析で終わっては、勝利を再現するのは難しい。

相手のエースが出場していたら、どんなゲーム運びになっていただろうか。エース欠場の問題だけではなく、味方にはどんないいところがあったのか。調子がいい状態をなぜつくり出すことができたのか。これらを真剣に考えることで、成功の再現性は高くなる。… 続きを読む